

(3) 本田期の防除

RPA

病害虫名	防除時期	薬剤名	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
葉いもち	6月下旬 ～ 7月上旬	ブラスシロアブル	U14, 16.1		3～4kg/10a		収穫7日前まで	散布	2回以内
		ブラスシロアブル	U14, 16.1		1000倍	60～150 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内
		トライフロアブル	U16		1000倍	60～150 μ g/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内
	初発の10日前～初 発時	オレメート1キロ粒剤	P02		1～1.3kg/10a		収穫14日前まで	散布	2回以内
		オレメート粒剤	P02		3～4kg/10a		葉いもちには初発の10日前～初 発時穂いもちには出穂3～4週間 前 収穫14日前まで	散布	2回以内
		オレメート粒剤20	P02		1kg/10a		収穫14日前まで	散布	2回以内
		コラトップ 1キロ粒剤12	16		1～1.5kg/10a		葉いもちに対しては初発10日前 ～初発時 穂いもちに対しては出 穂30日前～5日前まで	散布	2回以内
	初発の10日前～ 10日後	オブライト250G	11		250g/10a		出穂10日前まで ただし、収穫45日 前まで	散布	1回
	初発前	ルーチン粒剤	P03		1kg/10a		収穫30日前まで	湛水散布	2回以内
	穂いもち病	第2回目 穂揃直後	ラブサイドダントツフロアブル	4A,1 6.1		8倍	800mL/10a	収穫7日前まで	無人ヘリコプターによる散布
アミスターレボソSE			3A,1 1	8倍	800mL/10a	収穫14日前まで	空中散布	3回以内	
				1000倍	60～150 μ g/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	
トライフロアブル			U16	1000倍	60～150 μ g/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	
				8倍	0.8 μ g/10a	収穫14日前まで	無人航空機による散布	2回以内	
ブラスシロアブル			U14, 16.1		3～4kg/10a		収穫7日前まで	散布	2回以内
ブラスシロアブル			U14, 16.1		1000倍	60～150 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内
ピームエイトEXゾル			4C,1 6.1	250倍	25 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	
				8倍	0.8 μ g/10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	3回以内	
	1000倍	60～150 μ g/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内			

病害虫名	防除時期	薬剤名	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
穂いもち病	第2回目 穂揃直後	ビームイトイクシードゾル	4C,1 6.1		250倍	25 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	収穫7日前まで	散布	3回以内
					8倍	0.8 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	3回以内
					1000倍	60～150 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	収穫7日前まで	散布	3回以内
			ビームスタークル粉剤5DL	4A,1		3～4kg/10a		収穫7日前まで	散布
		ビームイトモンカット70アブール	16,7		5～8倍	800mL/10a	収穫14日前まで	無人航空機による散布	3回以内
	出穂3～4週間前	オリゼート粒剤	P02		3～4kg/10a		葉いもちには初発の10日前～初発時穂いもちには出穂3～4週間前 収穫14日前まで	散布	2回以内
出穂10日前頃	ワイドパンチ豆つぶ	2B,1		250g/10a		収穫35日前まで	散布	1回	
紋枯病	第1回目 穂ばらみ期 (垂直進展初期)	パリダシ液剤5	U18		1000倍	60～150 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	収穫14日前まで	散布	5回以内
		パリダシ粉剤DL	U18		3～4kg/10a		収穫14日前まで	散布	5回以内
	第2回目 穂揃期	アミスターレボソSE	11, 3A		8倍	800mL/10a	収穫14日前まで	無人航空機による散布	3回以内
		ビームイトモンカット70アブール	16,7		5～8倍	800mL/10a	収穫14日前まで	無人航空機による散布	3回以内
	出穂30日前～出穂期	リンパ-粒剤	7		3～4kg/10a		収穫30日前まで	散布	2回以内
	出穂30～10日前	モンカット粒剤	7		3～4kg/10a		出穂30～10日前 但し、収穫14日前まで	湛水散布	4回以内
白葉枯病	移植活着後及び出穂3～4週間前	オリゼート粒剤	P02		3～4kg/10a		移植活着後及び出穂3～4週間前 収穫14日前まで	散布	2回以内
ごま葉枯病	第1回目穂ばらみ期	ブラシン70アブール	P02		1000倍	60～150 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	収穫7日前まで	散布	2回以内
		ブラシン粉剤DL	P02		3～4kg/10a		収穫7日前まで	散布	2回以内
稲こうじ病	出穂10日前まで	Zボルト-粉剤DL	P02		3～4kg/10a		出穂10日前まで	散布	-
	穂ばらみ期	ブラシン粉剤DL	P02		4kg/10a		収穫7日前まで	散布	2回以内
もみ枯細菌病	出穂3～4週間前	オリゼート1キロ粒剤	P02		1～1.3kg/10a		収穫14日前まで	散布	2回以内
		オリゼート粒剤	P02		3～4kg/10a		移植活着後及び出穂3～4週間前 収穫14日前まで	散布	2回以内
イネヒメモグリ バエ	5月中旬～6月上旬 (幼虫発生初期)	エルサン乳剤	1B	劇	1500～2000倍	60～150 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	収穫7日前まで	散布	2回以内
		エルサン粉剤2	1B		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	2回以内

病害虫名	防除時期	薬剤名	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数	
イネゾウムシ成虫	5月中旬	エルサン粉剤2	1B		3~4kg/10a		収穫7日前まで	散布	2回以内	
イネズゾウムシ (越冬成虫)	5月下旬	トレボン粒剤	3A		2~3kg/10a		収穫21日前まで	散布	3回以内	
ニカメイチュウ第1世代	第1世代 粉液剤：発が最盛	エルサン乳剤	1B	劇	1000~1500倍	60~150 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	
ニカメイチュウ第2世代	期後15~20日頃 (6/15~20頃)	エルサン乳剤	1B	劇	800~1000倍	60~150 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	
ニカメイチュウ	粒剤：発が最盛期 10日後頃 (6/10頃)	パダンSG水溶剤	14	劇	1500倍	60~150 μ g/10a	収穫21日前まで	散布	6回以内	
		パダン粒剤4	14	劇	3~4kg/10a		収穫30日前まで	散布	6回以内	
イネコメダニ類	6月下旬~7月下旬	MR.ジヨーカー粉剤DL(失効)	3A		3~4kg/10a		収穫7日前まで	散布	2回以内	
		トレボン粉剤DL	3A		3~4kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内	
ツマグロヨコバイ	7月下旬~8月上旬 (第2世代幼虫発生初期)	MR.ジヨーカー粉剤DL(失効)	3A		3~4kg/10a		収穫7日前まで	散布	2回以内	
	8月中旬~8月下旬 (第3世代幼虫発生初期)	アルパリン粉剤DL	3A		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内	
		キラップジヨーカー707 μ ル(失効)	8倍	3A		8倍	0.8 μ g/10a	収穫14日前まで	無人ヘリコプターによる散布	2回以内
			1000倍			60~200 μ g/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	
		スタークル粉剤DL	3A		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内	
		ダントツH粉剤DL	3A		3~4kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内	
	トレボン粉剤DL	3A		3~4kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内		
トレボン粒剤	3A		2~3kg/10a		収穫21日前まで	散布	3回以内			
ウカカ類	7月下旬~8月上旬 (幼虫発生初期)	スタークル粉剤DL	4A		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内	
		アルパリン粉剤DL	4A		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内	
		ビームスタークル粉剤5DL	4A,1 6.1		3~4kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内	
		トップジンスタークル粉剤DL	4A,1		3~4kg/10a		収穫14日前まで	散布	3回以内	
		ダントツH粉剤DL	4A		3~4kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内	
		トレボン粉剤DL	3A		3~4kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内	
		トレボン粒剤	3A		2~3kg/10a		収穫21日前まで	散布	3回以内	

病害虫名	防除時期	薬剤名	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
ウカ類	7月下旬～8月上旬 (幼虫発生初期)	アミスタートロボンSE	3A,1 1		1000倍	60～150 μ L/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内
					8倍	800mL/10a	収穫14日前まで	無人航空機による散布	3回以内
		MR.ジヨーカー粉剤DL(失効)	3A		3～4kg/10a		収穫7日前まで	散布	2回以内
					キラップジヨーカーフロアブル(失効)	2B,3 A		8倍	0.8 μ L/10a
		1000倍	60～200 μ L/10a	収穫14日前まで	散布			2回以内	
		ピームイトEXゾル	4C,1 6.1		8倍	0.8 μ L/10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	3回以内
					250倍	25 μ L/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内
					1000倍	60～150 μ L/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内
		ピームイトエクシードゾル	4C,1 6.1		250倍	25 μ L/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内
					8倍	0.8 μ L/10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	3回以内
	1000倍				60～150 μ L/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	
	エクシードフロアブル	4C		2000倍	60～150 μ L/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	
				16倍	0.8 μ L/10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	3回以内	
エクシード粉剤DL	4C		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内		
エミリアフロアブル	4F		8倍	0.8 μ L/10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	2回以内		
出穂7～10日後	スターカル豆つぶ	4A		250～ 500g/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内	
アサヒコヤカ	6月下旬～7月上旬 (第1世代幼虫発生初期) 7月下旬～8月上旬 (第2世代幼虫発生初期)	スチオン乳剤	1B		2000～4000倍	60～150 μ L/10a	収穫21日前まで	散布	2回以内
イネトムシ	6月下旬(第1世代) 7月下旬～8月上旬 (第2世代) 各世代とも若齢幼虫発生初期	パタソンSG水溶剤	14	劇	1500倍	60～150 μ L/10a	収穫21日前まで	散布	6回以内

病害虫名	防除時期	薬剤名	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
コブノメイガ	7月中旬～8月中旬 (成虫飛来盛期～ 幼虫ふ化期)	スミチオン粉剤3DL	1B		3～4kg/10a		収穫21日前まで	散布	2回以内 (但し、出穂前は1)
カメシ類	早生・中生 第1回目：穂揃期 第2回目：糊熟初期	スミチオン粉剤3DL	1B		3～4kg/10a		収穫21日前まで	散布	2回以内 (但し、出穂前は1)
		スミチオン乳剤	1B		8倍	800mL/10a	収穫21日前まで	空中散布	2回以内
	8倍				800mL/10a	収穫21日前まで	無人航空機による散布	2回以内	
	晩成は糊熟初期に 1回のみ	エクシード粉剤DL	4C		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内
		エクシードフロアブル	4C		16倍	0.8% ¹⁰ /10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	3回以内
					2000倍	60～150% ¹⁰ /10a	収穫7日前まで	散布	3回以内
		トレボン粉剤DL	3A		3～4kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内
		トレボンスターフロアブル	3A,4		8倍	0.8% ¹⁰ /10a	収穫14日前まで	無人航空機による散布	3回以内
		トライトレボン粉剤DL	3A,U 16		3～4kg/10a		収穫14日前まで	散布	2回以内
		アミスタートレボンSE	3A,1 1		1000倍	60～150% ¹⁰ /10a	収穫14日前まで	散布	3回以内
					8倍	800mL/10a	収穫14日前まで	無人航空機による散布	3回以内
		エミリアフロアブル	4F		8倍	0.8% ¹⁰ /10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	2回以内
		MR.ジョーカー粉剤DL(失効)	3A		3～4kg/10a		収穫7日前まで	散布	2回以内
		キラップジョーカーフロアブル(失効)	2B,3 A		8倍	0.8% ¹⁰ /10a	収穫14日前まで	無人ヘリコプターによる散布	2回以内
					1000倍	60～200% ¹⁰ /10a	収穫14日前まで	散布	2回以内
		スタークル粉剤DL	4A		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内
		アルパリン粒剤	4A		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内
		トップジンスタークル粉剤DL	4A,1		3～4kg/10a		収穫14日前まで	散布	3回以内
		ビームスタークル粉剤5DL	4A,1		3～4kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内
		ビームイトスタークルゾル	4C,1 6.1		8倍	0.8% ¹⁰ /10a	収穫7日前まで	無人ヘリコプターによる散布	3回以内
1000倍					60～150% ¹⁰ /10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	
ビームイトEXゾル	4C,1 6.1		8倍	0.8% ¹⁰ /10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	3回以内		
			250倍	25% ¹⁰ /10a	収穫7日前まで	散布	3回以内		
			1000倍	60～150% ¹⁰ /10a	収穫7日前まで	散布	3回以内		

病害虫名	防除時期	薬剤名	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
カメシ類	早生・中生 第1回目：穂揃期 第2回目：糊熟初期	ビームイトエクスシードゾル	4C,1 6.1		8倍	0.8% ¹⁰ /10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	3回以内
					250倍	25% ¹⁰ /10a	収穫7日前まで	散布	3回以内
					1000倍	60～150% ¹⁰ /10a	収穫7日前まで	散布	3回以内
	晩成は糊熟初期に 1回のみ	ダントツH粉剤DL	4A		3～4kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内
		ラフサイドダントツフロアブル	4A,1 6.1		8倍	800mL/10a	収穫7日前まで	無人ヘリコプターによる散布	3回以内
	出穂10日前頃	キラップ粒剤	2B		3kg/10a		収穫14日前まで	湛水散布	2回以内
		ワイトパンチ豆つぶ	2B,1		250g/10a		収穫35日前まで	散布	1回
	出穂期	ダントツ粒剤	4A		3～4kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内
	出穂7日後	アルパリン粒剤	4A		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内
		スタークル粒剤	4A		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内
スタークル豆つぶ		4A		250g/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内	
アザミウマ類	出穂直前	トレボン粉剤DL	3A		3～4kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内

本田防除の注意事項

葉いもち

- ・圃場をよく見まわり早期発見につとめ、初期防除を徹底する。
- ・予防粒剤の適期は6月上旬頃、散布剤は初発の1週間後である。
- ・薬剤を施用した圃場でも、新たな病斑が発生したら、散布10日後に追加防除する。
- ・降雨が続いても、雨のやみ間を見て防除する。
- ・直播田や遅植田は、多発する可能性があるので注意する。
- ・粒剤は水深3～4cm、パック剤は水深5～6cmで止水、散布し、施用後1週間程度はかけ流しをしない。
- ・パック剤は、藻や浮草が多発している場合や風の強い日は拡散が劣る。
稲が繁茂してからは使用しない。
- ・オリブライト1キロ粒剤は、葉に褐点が出ることもある。

〔耕種的防除〕

- ・保菌種子や被害わらが第一次伝染源となるので、健全種子を使用し、種子消毒する。
育苗施設周辺から、わら、籾殻などを除去する。
- ・覆土時に種籾を露出させない。
- ・育苗時ハウスに紫外線カットフィルムを使用すると孢子形成が阻害される。
- ・伝染源をなくすため、補植用苗は早急に取り除く。
- ・窒素肥料を多用すると稲体が軟弱に生育し、発病を助長する。
- ・珪酸質肥料を秋起時に施用し、イネの抵抗力を高める。
秋に施用しない場合は、出穂の2週間前までに本田施用する。

穂いもち

- ・葉いもちが多発した圃場や葉色の濃い圃場、出穂期以降の連続降雨で多発しやすい。
- ・多発が予想されるときは傾穂期（穂揃い7～10日後）に追加防除する。
- ・使用時期が「収穫21日前まで」の薬剤は、早生品種の穂揃後に使用しない。
- ・ブラシン粉剤DL、ブラシンフロアブルは変色米に有効である。

紋枯病

- ・前年の罹病残渣が伝染源であるので、前年多発した圃場では箱粒剤、種子塗抹剤等を使用し、初期防除を徹底する。
- ・粒剤施用後、1週間程度は湛水状態を保ち、落水やかけ流しはしない。
- ・薬剤が稲の下部に付着するように散布する。
- ・晩生種、直播田でも7月下旬には防除する。
- ・使用時期が「収穫21日前まで」の薬剤は、早生品種の穂揃後に使用しない。

- ・初期防除を行っていても、後期に多発生が予想される場合は追加防除する。

小粒菌核病

- ・粒剤施用後、1週間程度は湛水状態を保ち、落水やかけ流しはしない。
〔耕種的防除〕
- ・発生地域では早期落水をしない。
- ・灌排水に注意し、根腐れを起こさないようにする。

白葉枯病

- ・常発地や多発が予想される場合は、予防散布を行う。
- ・散布後、1週間程度は湛水状態を保ち、落水やかけ流しはしない。

ごま葉枯病

- ・発生が多い場合は、傾穂期にも防除する。
〔耕種的防除〕
- ・「秋落ち」など肥切れしやすい圃場で発生しやすいため、土壌改良資材を投与し土づくりを行う。
- ・適切な中干を行い、稲体の消耗を防ぐ。

もみ枯細菌病

- ・健全種子を使用し、正しく種子消毒を行う。催芽～育苗時に30℃以上の高温になると感染が広がるため温度管理に気を付ける。
- ・出穂期頃の最低気温が22℃以上の高温状態で、降雨が続くと多発する。
- ・粒剤散布後、1週間程度は湛水状態を保ち、落水やかけ流しはしない。
- ・使用時期が「収穫21日前まで」の薬剤は、早生品種では穂揃期までとする。

イネヒメハモグリバエ

- ・幼虫加害初期に防除する。
- ・直播栽培など生育が遅いほど発生が多くなる。

イネミズゾウムシ

- ・山間部や雑草地の近くで発生が多い。
- ・穴あき米（穿孔米）は割れ粃（開えい粃）が多いと発生も多くなる。
- ・粉剤は浅水にして夕方散布すると効果が高い。
- ・6月上旬はニカメイチュウ、イネドロオウムシと同時に防除できる。

ニカメイチュウ

- ・遅植、直播、多肥栽培で発生しやすい。
- 〔耕種的防除〕
- ・幼虫が収穫後の刈り株で越冬するので、刈り株の早期すき込みと湛水管理を行う。

イナゴ類

- ・幼虫発生初期の6月下旬～7月上旬の防除が効果的である。
- ・畦畔沿いを重点に散布する。

ツマグロヨコバイ

- ・防除時期および防除要否は、予察情報または地域ごとの調査で判断する。
- ・早生品種の収穫後は、中晩生品種に集中加害することがあるので注意する。
- ・収穫期近くの防除は農薬使用基準に従い薬剤を選ぶ。
特に、使用時期が「収穫21日前まで」の薬剤は、早生品種での使用に注意する。
- ・トレボン粒剤は湛水して施用し、施用後1週間程度はかけ流ししない。

ウンカ類（セジロウンカ、トビイロウンカ）

- ・防除時期および防除要否は予察情報または地域ごとの調査で判断する。
- ・薬剤が株元にかかるように散布する。
- ・トレボン粒剤は湛水条件で使用し、施用後1週間程度はかけ流ししない。
- ・使用時期が「収穫21日前まで」の薬剤は、早生品種での使用に注意する。
- ・収穫期近くの防除は使用時期に注意する。

フタオビコヤガ（イネアオムシ）

- ・使用時期が「収穫21日前まで」の薬剤は、早生品種での使用に注意する。
- ・遅植や直播田に発生が多い。

イネツトムシ（イチモンジセセリ）

- ・葉色の濃い品種で被害がひどくなる。
- ・遅植や直播田に発生が多い。

コブノメイガ

- ・防除適期は、幼虫ふ化初期となる成虫最盛期3～5日後である。
- ・葉色が濃いイネは被害が出やすい。

カメムシ類

- ・ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、カスミカメムシ類の発生が多いときは、収穫14～7日前に追加防除する。
- ・粒剤は湛水深3 cm程度で散布し、施用後1週間程度はかけ流しをしない。

イネクロカメムシ

- ・越冬場所に近い山際などで、6月下旬に葉が萎縮するなどの被害を確認したら7月上旬までに防除する。
- ・若齢幼虫は下部の葉鞘に多いため、下部に葉剤がかかるようにする。